

宍道湖の平成30年度水質測定結果及び水質浄化対策推進状況

1. 平成30年度水質測定結果について

(1) 環境基準等の達成状況 (図1-1、図1-2)

環境基準点5地点における水質測定結果(COD(化学的酸素要求量)、全窒素及び全りん)

- 第6期湖沼水質保全計画で定めた目標水質について、全窒素は目標を達成。COD及び全りんは未達成。
- 環境基準値はいずれも未達成。
- 平成22～24年度に3年連続して大発生したアオコについて、平成30年度は10月に発生したものの、小規模なものであった。
- アオコが発生した要因として、夏季の集中豪雨により、湖内の塩分が低め値で推移したことが理由の1つと考えられる。

図1-1. 宍道湖の測定地点図

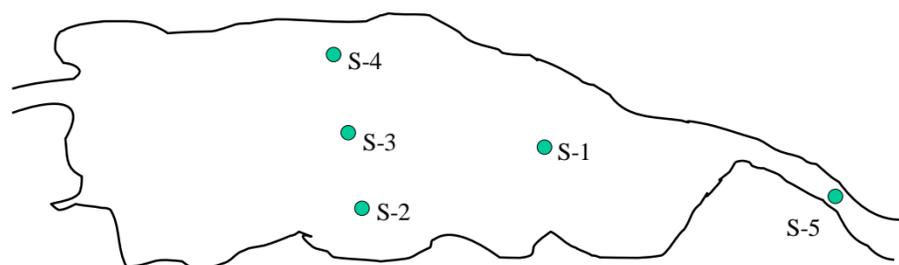
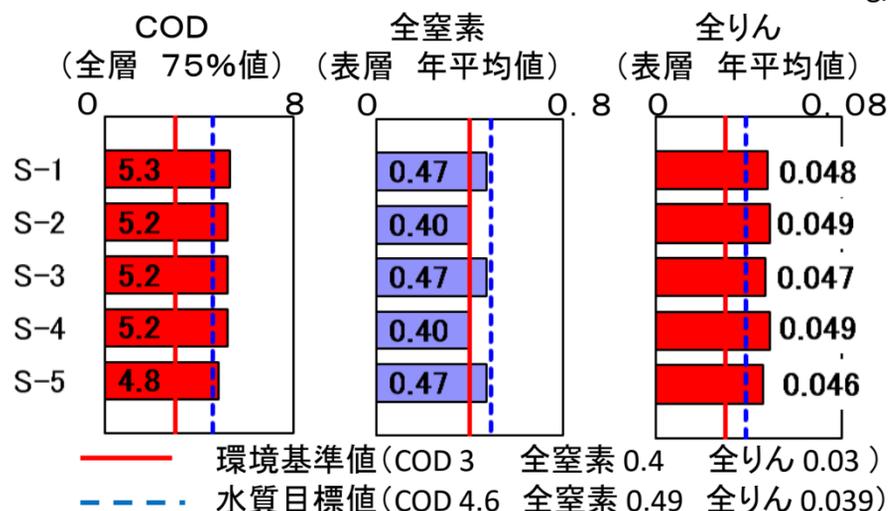


図1-2. 宍道湖の環境基準点の測定結果

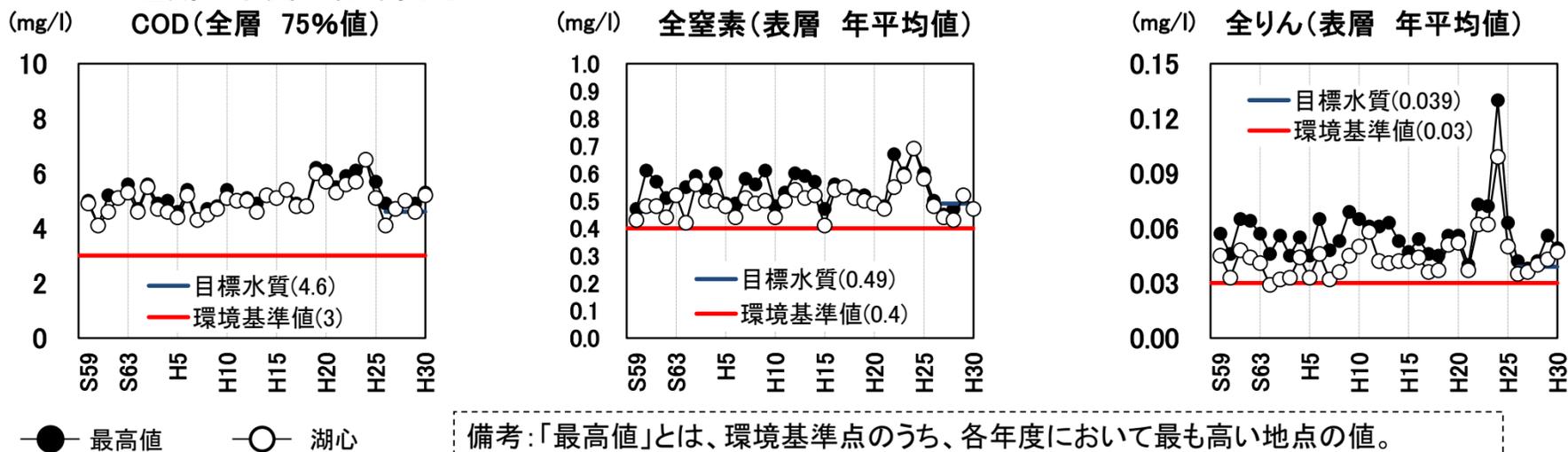
単位: mg/l



(2) 経年変化について

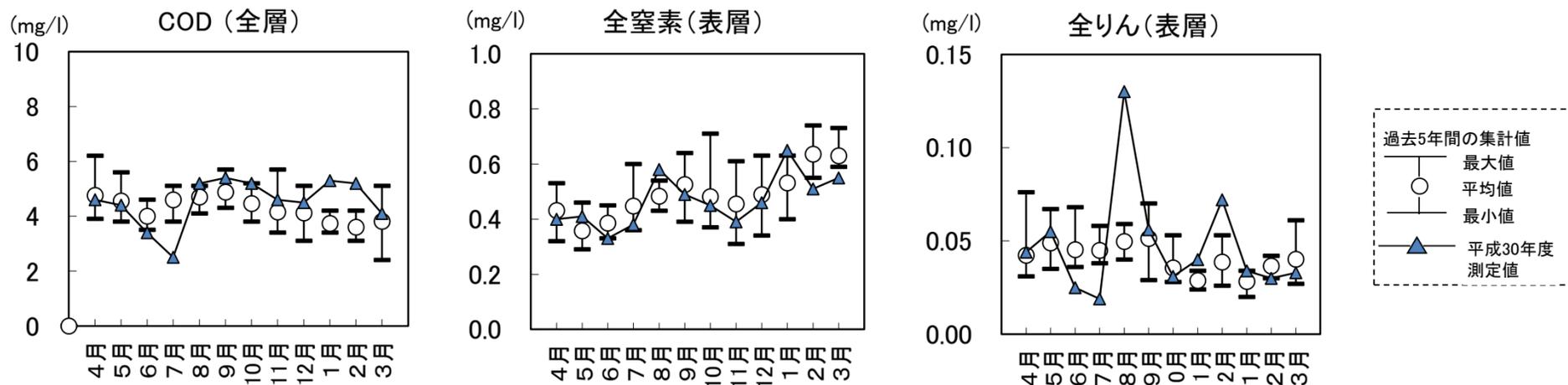
- CODは平成19～24年度は植物プランクトンの増殖により高めで推移していたと考えられるが、平成25年度以降はアオコの大発生がなく、平成18年度以前の水準に低下。
- 全窒素は、平成22～24年度はやや高めで推移していたが、平成25年度以降は平成21年度以前の水準に低下。
- 全りんは、平成22～24年度は高めで推移していたが、平成25年度以降は平成21年度以前の水準に低下。

図1-3. 宍道湖の水質の経年変化



【参考1】経月変化(湖心 S-3)

図. 宍道湖湖心における平成30年度水質測定値の経月変化



【参考2】平成30年度の気象状況

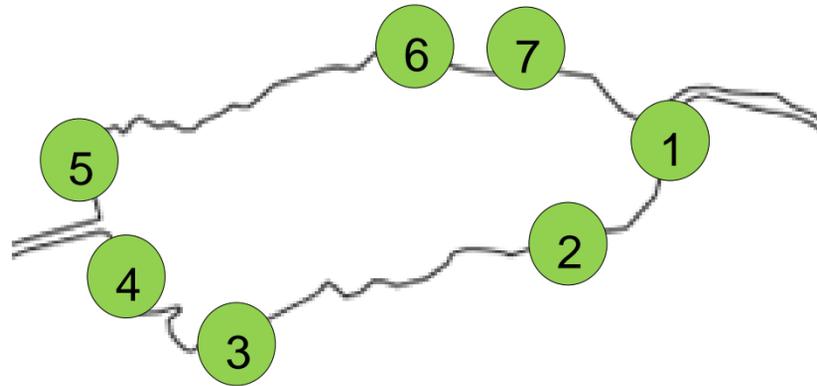
- 年平均気温(松江)は16.0°Cで、平年値(14.9°C)より高かった。
- 年間降水量(松江)は1839.0mmで、平年値(1787.2mm)より多かった。
- 年間日照時間(松江)は1772.1時間で、平年値(1696.2時間)より多かった。

2. 長期ビジョンの実現に向けた指標について

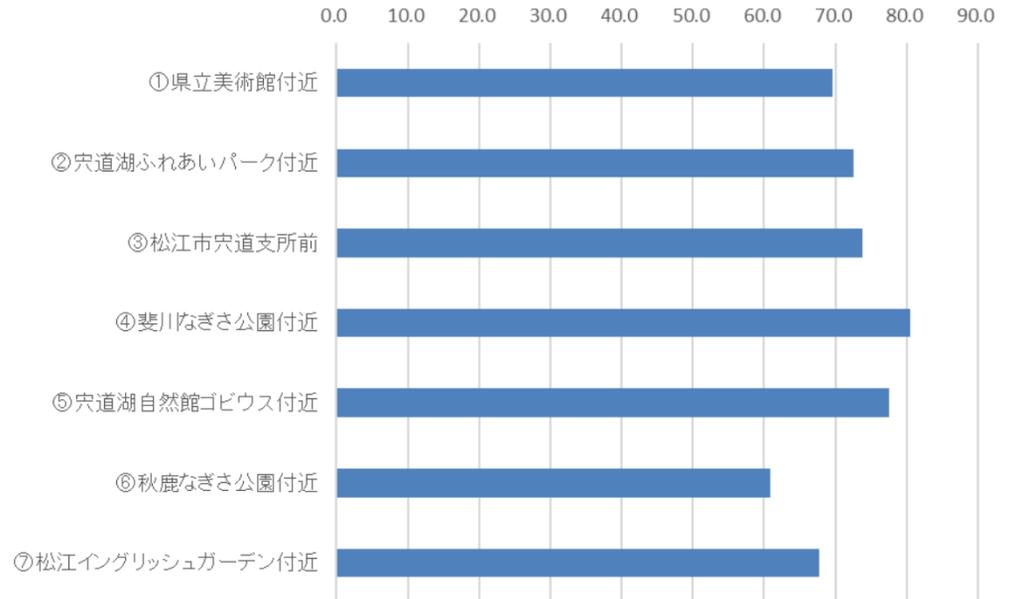
(1) 五感による湖沼環境調査結果について

- 住民に親しみやすく分かりやすい環境指標として「五感による湖沼環境調査」を7地点で実施（図3-1）
- 平成29年10月～平成30年9月期は地域住民がモニターとして38名、3団体が参加
- 平成29年10月～平成30年9月期は平均が72点、目標とする80点以上の地点は1地点
- 経年変化を見ると、得点は概ね横ばい

図3-1 調査地点



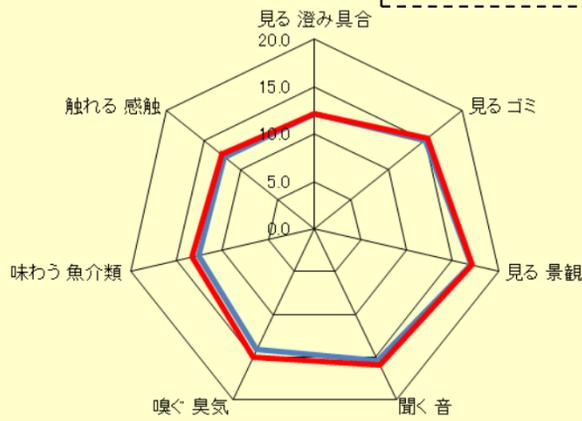
各地点の得点(期間平均値)



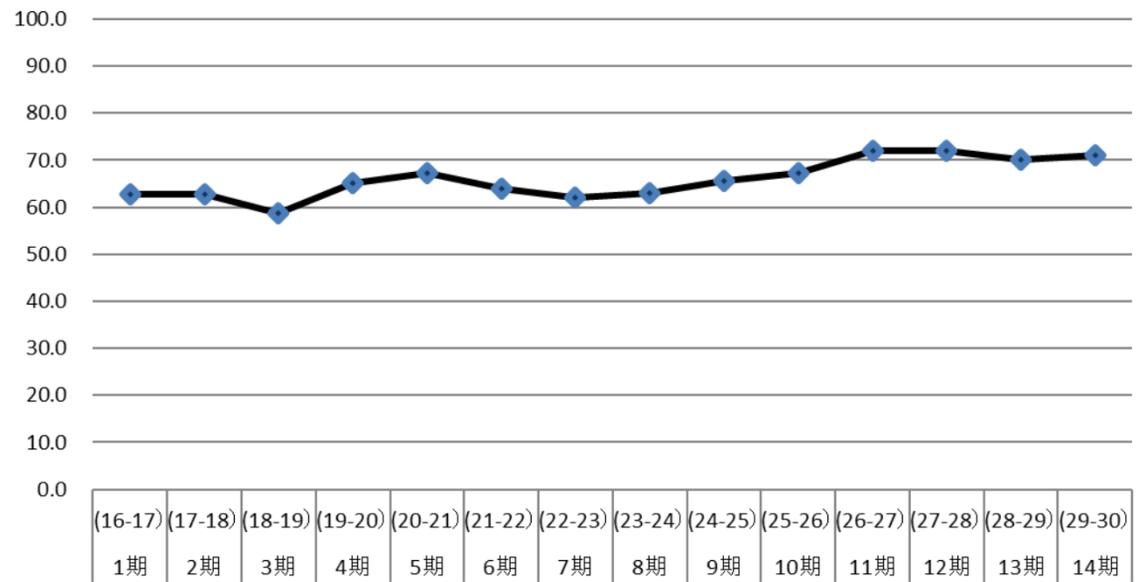
宍道湖総合

【凡例】

- H29.10-H30.9
- H28.10-H29.9



五感指数の経年変化(宍道湖総合)



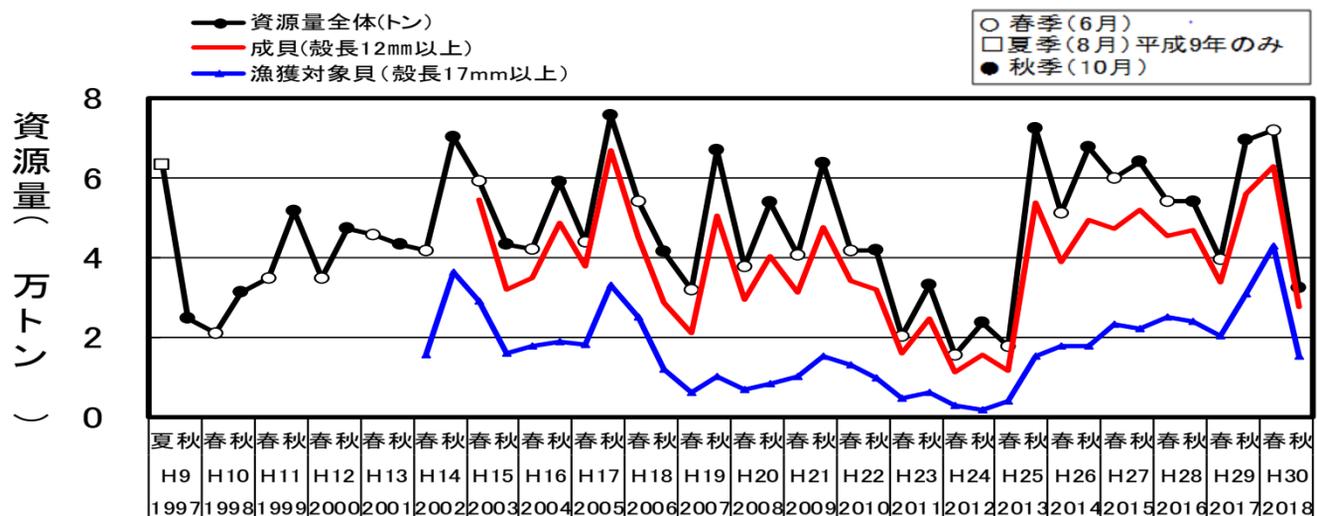
■五感による湖沼環境ランク表

| 合計点数 | ランク | 評価内容 |
|---------|-----|---------------------------------|
| 80点以上 | A | おおむね良好で親しみやすい環境にあると感じられる。 |
| 50点～79点 | B | やや気になる面があるが、ますます良好な環境であると感じられる。 |
| 49点以下 | C | 快適さに欠け、親しみにくい環境にあると感じられる。 |

(2) 生物生息環境による評価について

○宍道湖の象徴的存在であるシジミ(ヤマトシジミ)をはじめとする汽水域の生物が安定的・持続的に生息するような生物生息環境を目指す

【参考3】宍道湖のヤマトシジミの資源量の推移



3. 湖沼水質保全計画の進捗状況について

水質改善に取り組む為、平成元年から湖沼水質保全計画を定め、国、県、関係市町、県民、企業及びNPO等が連携して、各種施策を推進している。第6期湖沼水質保全計画(H26～30年度)において、平成30年度までに達成すべき目標を定めている各種施策は、概ね計画どおりであった。

図3-1. 生活排水処理施設の整備状況

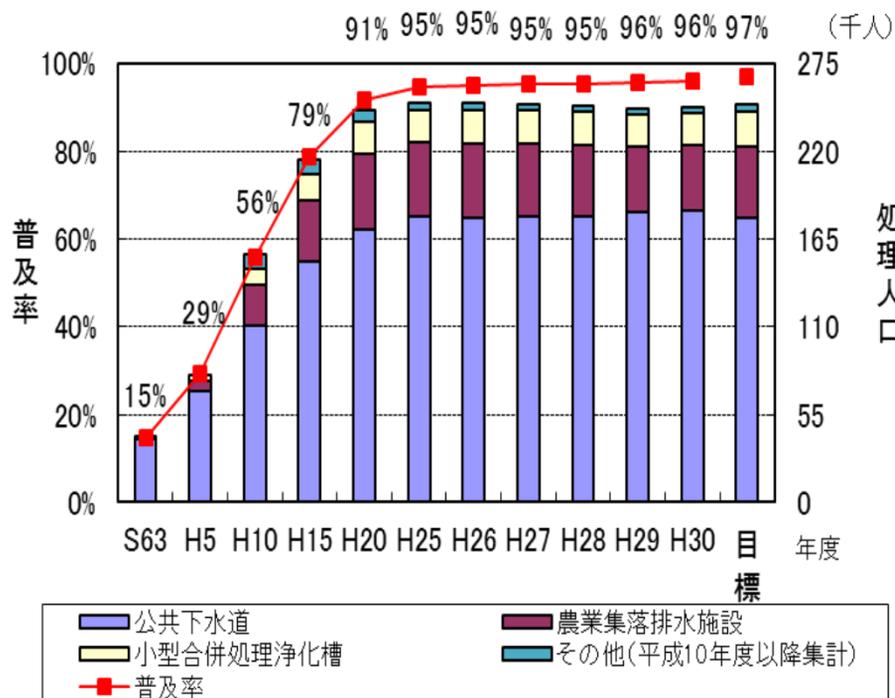
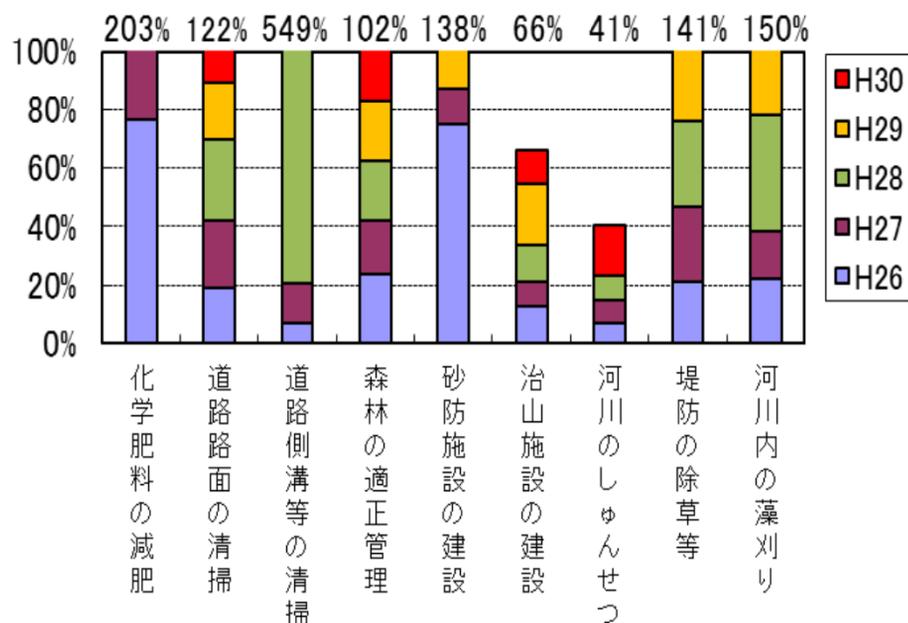


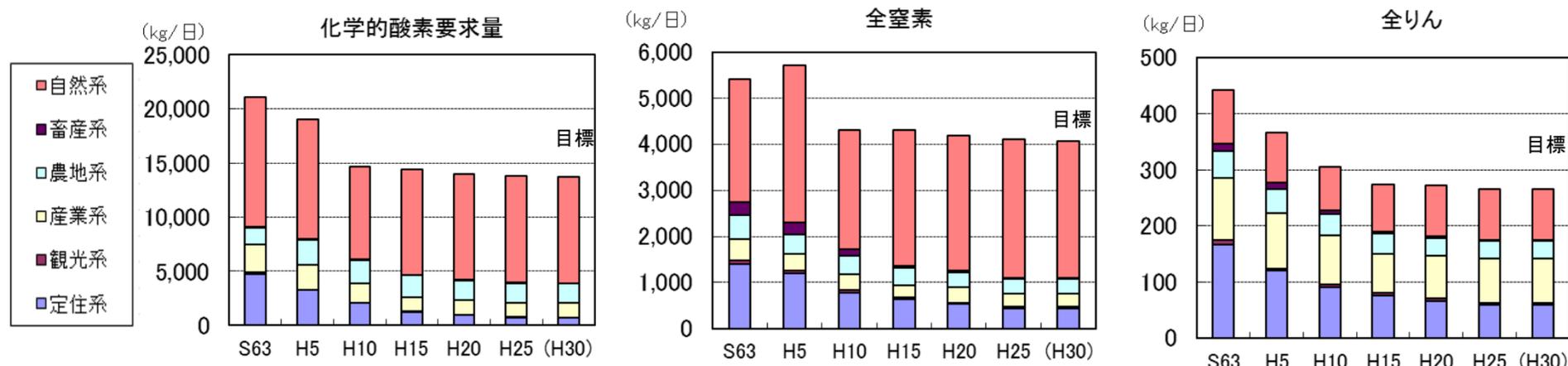
図3-2. 各種施策の進捗状況 (注1)



注1) H30年度までの累計目標事業量を100%とする。

参考

参考3-1. 宍道湖に流入する汚濁負荷量の推移



参考3-2. 宍道湖に流入する主な河川(斐伊川、山居川)の水質

